

目次

文学史上の『堤中納言物語』	久下裕利	1
六条斎院祿子内親王家「物語合」の復原 ——『後拾遺和歌集』の詞書の再検討を通して——	横溝博	25
『花桜折る少将』の切り詰められた世界 ——終末部における中将の乳母登場の意義など——	陣野英則	49
『虫めづる姫君』を読む ——冒頭部の解釈をめぐって——	横溝博	69
『ほどほどの懸想』覚書 ——〈三〉という数字への〈こだわり〉をめぐって——	大倉比呂志	93

『逢坂越えぬ権中納言』を読む …………… 久下裕利 105

『貝合』を読む

——正しい読解のための六つの問題点——…………… 後藤康文 123

『思はぬ方に泊まりする少将』を読む

——「宇治十帖」を起点に…………… 野村倫子 149

『はいずみ』を読む

——「我身かく」歌の解釈と「口おほひ」する女の系譜…………… 星山健 171

『堤中納言物語』——研究の現在と展望…………… 井上新子 193